

市政に関する 一般質問の概要

9月12日、13日に議員22名が市の考えをいただきました。主な質問、答弁の要旨を紹介します。

入札制度の現状は

新政海クラブ 森下 賢人



問：市発注の案件において、低価格での落札が続いており、現状の入札制度について、市の見解を伺います。

答：金額を尊重すべきと考えます。ただし、業者間の過当競争による品質低下や工事の安全性の問題が危惧されるため、品質・安全確保を考慮しています。

また、材料の実勢価格が市場価格と同額かそれ以上の現状において、特に独占性の高い二次製品は価格が吊り上げられ、直接工事費の範囲を超える費用が発生することがあります。二次製品の積算の現状について伺います。

答（建設部長）：二次製品の積算について、材料単価は神奈川県市場調査に基づき土木工事材料等単価表の単価と土木工事標準積算基準書に基づき算出した材料単価を採用し積算しています。市販の物価資料に掲載されているものは実勢価格の最安値を、掲載されていないものは原則3社以上から見積もり徴収して最安値を採用しています。

問：空港リムジンバスの海老名発着実現は、経済活性化や市民の利便性向上など市のイメージアップにも大きな効果があると考えますが、市ではどのように評価しているのか伺います。

また、これまでの経過と併せて利用者見込み、運行本数を伺います。

答（市長）：低入札は、法的義務や社会的責任を果たした上での企業努力によるものであれば、必ずしも否定するものでなく、入札

児童の交通安全対策は

民主・みんな・無所属クラブ 外村 昭



問：22年6月に中新田小学校の通学路を一部変更したことに伴い、保護者団体から「信号機の移設もしくは連動信号の新設」の要望書が提出されましたが、進捗状況を伺います。

答（教育部次長）：信号機の移設については、厚木駅に向かう場合に遠回りになるため中新田地区住民の理解を得る必要があること

答（教育長）：時間がかかっていますが、学校と地域が議論を進めています。

や、移設によって、通学路の安全性が懸念されることなどから慎重に検討する必要がありますがあることを要望書提出者に説明し、理解を得ているところです。

なお、信号機に代わる安全確保の措置として、「あぶないたびだし」の看板を設置しました。また、23年度中にはスクールゾーン路面標示を実施します。

海老名発着 リムジンバスの評価は

新政海クラブ 市川 敏彦



問：空港リムジンバスの海老名発着実現は、経済活性化や市民の利便性向上など市のイメージアップにも大きな効果があると考えますが、市ではどのように評価しているのか伺います。

また、これまでの経過と併せて利用者見込み、運行本数を伺います。

答（市長）：20年に海老名商工会議所および自治会連絡協議会、観光協会など各種団体からの要望を受け、相鉄バス(株)と神奈川中央交通(株)に対し私が直接各社長に運行要望を行いました。その後、事務レベルでの交渉を重ね、本市の発展性と

問：東日本大震災に端を発した福島第一原発の事故により、原発からの撤退と自然・再生可能エネルギー

自然・再生可能 エネルギーの普及を

日本共産党 佐々木 弘



問：東日本大震災に端を発した福島第一原発の事故により、原発からの撤退と自然・再生可能エネルギー

エネルギーの開発と普及を求める意見書」を全国に先駆け採択しました。

今後、各自自治体においても自然・再生可能エネルギーの本格的な普及に取り組むことが市民より求められると考えますが、市長の見解を伺います。

答（市長）：本市では、12年度から市民と市内事業者を対象に、自然エネルギー

巨大地震で相模川の 堤防は大丈夫か

新政海クラブ 鶴指 眞澄



問：東海地震、東南海地震、南海地震の三つの地震が同時に起きる三連動地震が300年から500年周期で発生しています。最後は1707年の宝永地震であり、それ以降304年が経過し、いつ発生してもおかしくない期間が経過しています。東日本大震災では、北上川で津波が河口から約50キロメートル上流の地点まで潮上しました。三連動地震が発生し、大津波が相模川を逆流する一方、上流のダムが決壊した場合、大増水が想定されます。今の堤防で市内左岸地域の住民を水害から守れるのか伺います。

答（市長）：相模川の堤防の安全性に関し河川管理者に確認したところ、国土交通省の構造基準に基づき、仮に地震で堤防に損傷や沈下が生じてても、堤内へ洪水しないよう整備しているとのことでした。

答（市長室長）：相模川上流に位置するダムは、強固な地盤に建設された重力式コンクリートダムで東日本大震災クラスにも耐えられることを確認しました。

高齢化社会の対応策は

海政会 山口 良樹



問：22年10月時点で全国の高齢化率は23・1%で実に4人にひとりが高齢者という社会になり、極めて深刻な行政課題であると認識

答（市長）：本市の高齢化率は8月1日現在、18・6%であり、全国平均と比較して低い状況ですが、今後急激に高齢化が進むと予想されるため、雇用・年金・医療・福祉など高齢社会にふさわしいシステムの構築が必要と考えます。核家族化や地域社会の変化などにより家庭での介護問題が喫緊の課題と考えますが、解決策として自分らしく安心して生活できる支援体制や仕組みづくりを、各種事業を通じて推進します。いつまでも元気に過ごしていた



釜坂川流域の 雨水整備計画は

新政海クラブ 藤澤 菊枝



問：近年、自然環境の変化により局地的なゲリラ豪雨で浸水被害が各地で発生しています。市でも22年12月に観測史上初の1時間72ミリメートルの大雨に見舞われ、道路が冠水した個所がありました。杉久保地内に流れる釜坂川は、農用水路としての役割のほか雨天時には、雨水を排水する役割も担っている水路です。この釜坂川も大雨で溢れ出すところがあり、一部改修工事に着手していますが、今後の釜坂川流域の雨水整備計画を伺います。

答（市長）：雨水整備には、大きな断面の管渠や水路が必要で、膨大な費用を要するため、補助金を活用しながら整備を進めています。釜坂川流域の雨水整備は21年度から工事着手し、未整備区間についても順次整備が待たれる釜坂川



整備が待たれる釜坂川